

本会議出欠状況・議案などの審議結果

●本会議出欠状況及び審議結果一覧（2～4月会議）

区分	主な内容	月日	議決者数 △△	賛成 △	反対 △	議決結果	森	加藤	安藤	平間	桜場	吉田	秋本	斎藤	平間	佐々木	安部	森	広沢	有賀	舟山	白内	水戸	高橋
							裕樹	滋	義憲	幸弘	政行	和夫	好則	義勝	奈緒美	裕子	俊三	淑子	真	光子	彰	恵美子	義裕	たい子
出欠状況	条例、補正予算	2.15	17				○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	町政報告、施政方針、一般質問	3.5	18				○	○	遅	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	一般質問	3.6	18				○	○	早	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	一般質問、人事案件、町道の認定・変更	3.7	17				○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	条例審議	3.8	17				○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	補正予算、新年度予算上程・総括質疑	3.9	17				○	○	欠	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	平成30年度予算採決、追加議案審議等	3.15	18				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	会期及び関係期間の結定、議員派遣	4.2	18				○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※「○」は出席、「欠」は欠席、「早」は早退、「遅」は遅参を表す。

審議結果	議案第32号～議案第33号	2.15	17	16	0	議案可決	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	
	報告第23号～第25号	3.5																						
	諮問第3号、議案第41号	3.7	17	16	0	議案可決	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	
	議案第42号～49号	3.8	17	16	0	議案可決	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	
	議案第50号	3.8	17	15	1	議案可決	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	否	○	○	○	議	
	議案第51号～議案第59号	3.9	17	16	0	議案可決	○	○	-	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	
	議案第60号～議案第61号	3.15	17	17	0	議案可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	議	

※「○」は賛成、「否」は賛成しないことを表す。 ※「議」は表決時に議長のため、また、「-」は議場にいないため表決に参加していないことを表す。

○平成29年度柴田町議会2月会議

件名	件名
議案32号 柴田町健康つながり基金条例 13ページに掲載	議案33号 平成29年度柴田町一般会計補正予算（1,528万8,000円増） 13ページに掲載

○平成29年度柴田町議会3月会議

件名	件名
議案42号 町道路線の変更 ・町道榎木92号線と町道富沢16号線の路線終点を変更するもの	議案53号 柴田町非常勤消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部を改正する条例 12ページに掲載
議案43号 町道路線の認定 ・町道船岡東66号線と町道船岡67号線を認定するもの	議案54号 平成29年度柴田町一般会計補正予算（1,269万1千円増） 13ページに掲載
議案44号 柴田町企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律第10条第1項の規定に基づく準則を定める条例を廃止する条例 ・企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律が改正	議案55号 平成29年度柴田町国民健康保険事業特別会計補正予算（2億787万3千円減） 決算に向けた調整を行うもの
議案45号 柴田町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準等を定める条例 12ページに掲載	議案56号 平成29年度柴田町公共下水道事業特別会計補正予算（2億9,524万3千円増） ・歳出は、社会資本整備総合交付金事業の確定に伴う、公共下水道事業委託料、工事費等の増額など
議案46号 柴田町県営土地改良事業に係る特別徴収金に関する条例 12ページに掲載	議案57号 平成29年度柴田町介護保険特別会計補正予算（8,046万7千円減） ・決算に向けた調整を行うもの
議案47号 柴田町職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例	議案58号 平成29年度柴田町後期高齢者医療特別会計補正予算 ・債務負担行為の追加を行うもの
議案48号 柴田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例 12ページに掲載	議案59号 平成29年度柴田町水道事業会計補正予算 ・決算に向けた調整を行うもの
議案49号 柴田町企業立地及び事業高度化を重点的に促進すべき区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部を改正する条例 ・企業立地の促進等による地域における産業集積の形成及び活性化に関する法律の改正	報告25号 専決処分の報告（和解及び損害賠償の額を定めること） ・公用車による交通事故で相手方と和解が成立したことを報告
議案50号 柴田町介護保険条例の一部を改正する条例 12ページに掲載	議案60号 柴田町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 ・職員の勤務1時間当たりの給与額の算出方法について、宮城県の条例改正に伴い、同様の改正を行うもの
議案51号 柴田町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例	議案61号 平成29年度柴田町一般会計補正予算（2億6,376万円増） ・船岡小学校と船岡中学校の大規模改造工事を実施するための委託料や工事請負費など
議案52号 柴田町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例の一部を改正する条例 ・地域包括システム強化のための介護保険法の改正に伴うもの	

一般質問



平間奈緒美 議員

Q 受援計画の早急な取り組みを

A ガイドラインを参考にしながら整備していく



備えあれば憂いなし

災害はいつ起きるかわからない。応援をもらうだけで復旧・復興が順調に進むわけではなく、いざというときのために応援を有効に活用できる体制づくりが重要である。

総務省の26年度報告では受援計画の策定は都道府県で約4割、市町村で約1割にとどまっている。

問 受援計画の重要性を認識し、取り組みを急ぐべきではないか。

町長 人的・物的資源を正確に把握し、効率的に配分・配置するために

は、応援・受援の状況の把握や、資源管理を確実に実施することが鍵である。本町では、全国さらサミット加盟自治体、愛知県東浦町と締結した災害時における相互応援協定などで規定している。今後、ガイドラインを参考にし、整備していく。

問 平時の連携策は。

危機管理監 平時から交流を図って、お互い顔の見える関係を築いていくのが必要である。訓練なども含め、今後進めていく。

問 自主防災組織に対し、活動フォーローは。

危機管理監 年に1回、自主防災組織の調査をし、例えば出前講座の活用をお願いしている。

問 防災のスペシャリストの活用は。

危機管理監 現職自衛官を途中退職した方を、地域防災マネージャー・危機対策担当として配置する。受援計画や各自自主防災組織への指導も加えていきたいと考えている。

問 ポイント対象事業を増やし、健康づくりを推進しては。

町長 各種健康診査や出前講座の事業のほか、フットパス事業を始めとした、各課の健康づくりに関する44事業が対象となっている。今後も対象事業を増やすなど、ポイントのためやすい環境をつくるよう努力する。

問 30年度ポイント事業の目玉は。

町長 今年度は、「健康100日チャレンジ」の内容のメニューを増やし、取り組み期間を延長するなど、事業の拡充について検討を進めている。

問 10ポイント達成者が交換できるものは、図書券以外に考えられないか。

町長 商品券の発行が終了となったため、発行手数料のかからない図書カードに切りかえた。手数料のかからないものがほかにあれば、改めて検討する。

問 健康寿命延伸のため、歩いた分だけがポイントとなり、町の特産品があれば交換できるようにしたい。図書券でいいという人もいる。ぜいたく味噌に交換したいという人もいる。商品開発も健康ポイントのできるのではないか。

健康推進課長 「本町の商品の提供を」と提案をいただいたので商工観光課を含めて、今年度に可能かどうか検討する。

Q 健康づくりポイント制の拡充を

A ポイントをためやすい環境をつくるよう努力する



吉田和夫 議員



健康づくりポイントを獲得!!

町長 有害鳥獣捕獲と狩猟捕獲の合計で25年度が77頭、26年度が71頭、27年度が101頭、28年度が213頭と増加した。

問 東日本大震災後のイノシシによる本町の被害額の推移は。
町長 25年度は、被害面積52㍎で被害額50万2千円、26年度は278㍎で196万2千円、27年度は180㍎で98万9千円、28年度は670㍎で131万1千円であるイノシシの捕獲数の推移は。



森 淑子 議員

Q イノシシが流通可能になった際は加工場の整備を

A 生息数の多いところと広域的に考えたい



イノシシ対策の電気柵

町長 殺処分したイノシシはどうしているのか。
町長 町有林や捕獲地の山林などに、所有者の許可を得て埋めている。
問 電気柵で囲っている面積は。
町長 町の補助事業で行っているものは、28年度で2千28㍎、29年度は2月末現在で約2千200㍎である。
問 電気柵設置に補助はあるのか。
農政課長 個人で設置する場合や町の単独補助で設

置する場合は、費用の2分の1補助で限度額は10万円。地域ぐるみで設置する場合は100割国の補助事業になっている。
問 宮城県では現在イノシシの放射線濃度が高いためジビエ利用ができないが、流通可能になった場合、加工場を作る考えはないか。
農政課長 加工場に対して、国の交付金を得るには、1千頭規模が必要とされている。広域的に考えてもいいかと思う。



舟山 彰 議員

Q 町内の橋の維持管理の見通しは

A 橋梁長寿命化計画を策定し対応



平成26年に耐震補強工事された白幡橋

国の調査によると、国や地方自治体では橋の修繕費用の確保が難しく、古い橋が放置されたままであったり、橋の統廃合が検討されているケースもある。そこで、本町の実情を問う。
問 古い橋を順番に5つ挙げてほしい。
町長 昭和25年建設の上名生字中川地内の久根添4号橋、中名生字西洞明田地内の船岡五間堀4号橋、船迫字釜ヶ入地内の平堀5号橋、昭和28年

建設の船迫字柳松地内の平堀7号橋、昭和29年建設の葉坂字六角地内の白坂堀8号の5橋である。
問 町内の橋の維持管理の見通しは。
町長 29年に橋梁長寿命化修繕計画を策定した。点検結果を精査し、緊急度の高い橋梁から修繕工事を行っている。30年度には葉坂の白坂堀8号橋、榎木五間堀6号橋の補修工事を行う予定である。

問 白幡橋は、県が長寿命化で修繕をしたが
町長 架け替えの費用は、約100億円との試算が示された。県は、26年に耐震補強工事を町の要望に対し実施した。長寿命化対策で健全な状態との報告であった。
町長 船岡と榎木を結び、角田・丸森方面に向かう重要な橋である。橋の重要性や大地震に備えての耐震性の強化なども考え、関係団体と連携し、もっと強固に新しい橋の建設を訴えるべきでは。



加藤 滋 議員

Q 高齢者への生活支援のサービス開発は

A 協議会でサービスの実施方法などを協議する



みんなで健康維持

介護予防・日常生活支援総合事業の一つとして、町社会福祉協議会に事業委託した生活支援コーディネーターの役割や、今後の方向について問う。

問 高齢者を取り巻く地域資源と、地域ニーズの見える化はどのように進めているのか。

町長 次年度以降、生活支援コーディネーターの活動内容や、地域資源などの情報を地図の上からも一目でわかるように取りまとめ、ガイドブッ

クにするなど、情報提供に努める。

問 地縁団体などへの協力依頼は。

町長 各地域の活動状況を把握するため、各行政区にアンケート調査を実施。この調査を基に、生活支援コーディネーターが地区を訪問する。情報の提供を受けながら高齢者が生活の中で困っている課題などを、日常生活支援総合事業として実施できるよう、地域と協議しながら進めていく。

問 生活支援の担い手養成や、サービス開発はどのように進めるのか。

町長 「いこいの日」のボランティアの中から、前期高齢者の方々を今後の生活支援の担い手として考えている。サービス開発は、町生活支援介護予防体制協議会において、生活支援サービスの実施方法などの協議を重ね、サービス利用者とサービス提供者の双方にとつてより良い事業となるよう進める。

問 本町における高齢運転者に対する交通事故抑止策と、今後の対応は。

町長 交通事故抑止策としては、運転者自身の運動適性や判断力などを認識していただくため、高齢運転者交通安全講習会を開催している。ほかに広報紙による特集記事の掲載、出前講座の開催、春・秋の交通安全運動街頭キャンペーンの実施、交通安全母の会による高齢者交通安全ふれあい世帯

訪問事業などを実施している。今後は、安全講習会などの各種事業を推進していく。

問 安心して免許証の返納ができる環境整備がされていなければ、交通機関の便利な場所に移住する人が増えるのではないかと。町の活性化を損なうのでは。

町長 本町の人口動態を見ると自然的増減の影響のほうが大きい。今後は、いかに子どもを増やしていくか、こちらの政策の

問 高齢者の運転免許証の自主返納を、町として促進する考えは。

町長 運転免許証の返納は自主的なものであり、行政が介入すべきものではないと考える。

問 運転免許証を返納された方への支援策は。

町長 運転免許は、個人の資格であり、その判断は個人の責任で行うもので、行政が立ち入るべきではないと考える。

Q 高齢者の運転免許証の自主返納を促す考えは

A 返納は自主的なものであり、行政は介入しない



斎藤義勝 議員



高齢運転者標識



平間幸弘 議員

Q 里山ハイキング案内板の更新を

A できるだけ早く更新したい



老朽化した案内板

問 里山ハイキングやフットパスで訪れた方が、場所によっては迷うこともある。地域の人が案内することもあるが、道行く人にわかりやすいサインがあれば、町長の掲げる交流人口の増加やつながり人口の増加にも対応できるのでは。

町長 里山ハイキングコースは、現在6コースあり、利用頻度の高い「深山コース」から案内板を更新する。材質やデザインについては、フット

パスコースの案内板を参考に、耐久性があり、わかりやすいものを検討していく。

問 深山コースから始めるとのことだが、どのような段階を踏んで更新するのか。

農政課長 現地を確認し、設置場所、数、内容などいろいろ考え、深山コースに設置していきたいと考えている。

問 間伐材の丸太でも、5年・6年と、風雨にさらされながらもち

んと立っている。ただ、ラミネートで表示された矢印などは風で飛んでなくなっている。貼り替えれば使える状況では。

町長 24年度にラミネート加工し、暫定的に設置している。地元の方や定期的な見回りの際に、破損などが報告されており、随時現場確認を行い、貼り替えるなどの対応をしている。経年劣化も進んでいるため、できるだけ早く更新をしたい。

にさらされながらもち



秋本好則 議員

Q 中核病院に行くためのタクシー補助券発行を

A 隣市町の実施状況を踏まえ研究課題とする



町内で活躍するデマンド型乗合タクシー

問 1つの方式で本町全域をカバーするのは

まちづくり政策課長 角田市の場合は、東西南北と4つのエリアから町なかに入ってくる。本町で導入した場合、町なかだけを回る利用者はいないのではないか。

問 三条市は、普通のタクシーを利用してフルデマンド型で運行。自宅近くまで迎えに行くが、降りるところは周辺部の循環型バスの停留所。要望があれば行くという形をとっている。一人当たりの経費は739円（H23）である。本町での経費は。

まちづくり政策課長 三条市について調べたことはない。

問 茨城県稲敷市では、乗車か降車が市内なら利用できるタクシー券を出している。この方式だと、みやぎ県南中核病院まで行けるのでは。

まちづくり政策課長 1千600円である。

問 検討しては。

まちづくり政策課長 運行は商工会で行っているの、即答はできない。

町長 近隣市町の実施状況を踏まえ、研究課題としたい。



白内恵美子 議員

Q 東北初の「あいサポート運動」の実施を

A 慎重に検討していきたい



みんながサポーター

現在は、障がいのある方もない方も共に生きる社会が求められている。本町も誰もが暮らしやすい社会を目指し、新たな取り組みが必要では。

問 「あいサポート運動」をどう考えるか。

町長 地域の住民が障がいの者のサポーターになる取り組みで、鳥取県が21年に始めた。様々な障がいを知ることから始め、障がい者が日常生活で困っていることを理解し、必要な配慮や手助けを

実践していこうという運動である。この運動は、障がい者に対する合理的配慮の実践と、誰もがお互いに人格と個性を尊重しあう共生社会へ向けた取り組みだと思う。

問 本町でも取り組んで

町長 県を挙げての運動が効果的であり、町単独より県、または仙南圏域で検討すべきである。

問 町が「あいサポート運動」を始めれば、より役に立つ活動ができ

る。運動の輪が大きく広がっていくのでは。

福祉課長 今後、慎重に検討していきたい。

問 登別市は28年に運動の協定を締結。北海道で第1号となり、1年後にはサポーターが712人となった。東北ではまだ締結している自治体がない。柴田町が東北の第1号になっては。

福祉課長 もう少し勉強し、障害者差別解消法と合理的な配慮の推進を踏まえて見定めていきたい。

30年広報しばた2月号で「ヘルプマーク・ヘルプカードを知ってください。手助けが必要な人と手助けする人をつなぎます」と特集が組まれた。障がいのある子どもや大人の方が助けを必要とするとき、ヘルプカードを示すと、周囲の配慮や手助けを受けやすく、また頼みやすくなる。心情的な障壁を取り除き、手助けが必要な人と手助けする人をつなぐ架け橋となるよう作成された。

Q ヘルプカードの周知を



佐々木裕子 議員

A 広報しばたなどに掲載し駅などにポスターを掲示



知ってほしいヘルプマークのこと

問 カード作成の経過は。

町長 29年7月、経済産業省のJIS規格に、東京都ヘルプマークのデザインが追加された。32年に開催される東京パラリンピックに向けて全国に普及することが確実なことから、東京都のヘルプマークとヘルプカードを、本町のマークに採用した。

問 情報発信は。

町長 障がい者関係団体に目的などを説明して

意見交換をした。広報しばた、町ホームページに記事を掲載、また、町内の公共施設や大学、駅などにポスターを掲示、民生児童委員協議会定例会などで説明した。

問 デザインは、どんな意味を込めたものか。

町長 赤は普通の状態でないことを発信し、ハートは手助けする気持ちの意味を含んでいる。助け合うことが、普通のことになっていくことを目指している。



安部俊三 議員

Q 児童生徒の体力づくりを一層推進すべき

A 仙台大学と連携し体力向上に向け事業を推進



ぐぐっと、足指測定中!!

問 本町の29年度全国体力テスト(対象は小学5年生、中学2年生)の結果はどうだったのか。

教育長 29年度の本町全体の体力合計点(8種目)は、まだ公表されていない。28年度の結果では、小学5年生男子、女子とも県の平均を上回り、国の平均と同程度だった。中学2年生では、男子は県の平均と国の平均を回り、女子は県の平均と国の平均を上回っている。

問 本町の児童生徒の体力づくりの成果をあげる取り組みの具体策は。

教育長 仙台大学との連携で、柴田町トップアスリート育成事業がある。その中で、学生が年間を通して教育活動を支援している放課後先生は、小中学校の体育の授業補助、中学校の部活動の支援を行っている。また、大学の教員による児童生徒の体力・運動能力調査への支援や、小中学校教員を対象とした体力テスト測定

定方法の講習会を行っている。

今後仙台大学と連携し、体力向上に向けて積極的に事業を推進する。

問 全国体力テスト対象以外の学年では、体力テストを実施していないのか。

教育総務課長 本町では、小学1年生から中学3年生までの、体力の変化が見えるように、全学年で実施している。

厚生労働省は、在宅高齢者などに対する訪問理美容サービス事業を積極的に活用するよう、各都道府県に勧めている。市町村によって要件などの違いはあるが、具体的には各市町村で認定した方に訪問理美容のチケットや助成金を支給することで利用者の負担を軽減し、訪問理美容サービスを受けてもらうというものである。宮城県内でも既に実施している市町村がある。

問 在宅高齢者などに対する訪問理美容サービスの認識と見解は。

町長 高齢者の頭髪管理に当たっては、衛生管理の面からも定期的な頭髪管理が重要かつ必要と考えている。県内では、在宅の高齢者で理容室や美容室に向くことが困難な方が、居宅で理美容サービス提供が受けられるよう、理美容師を派遣するための出張費等を助成している自治体がある。

問 訪問理美容サービスについて、しっかりと情報交換していくべきでは。

福祉課長 町だけの単独で進めることは難しいので、現場をしっかりと把握している事業者、理美容組合と連携して協議を進める。

Q 在宅高齢者の訪問理美容サービスの取り組みは



森 裕樹 議員

A 事業者、理美容組合と連携して協議を進める



全国的に広がりをもせる訪問理美容



有賀光子 議員

Q 子どもの心のケアハウスについて

A 関係機関との連携により一層の強化を図る



開設場所となる船岡公民館

問 子どもの心のケアハウスの支援内容は、本町では、小中学校の不登校児童生徒数は、県平均を上回っている。そこで問う。

教育長 柴田町は、30年度からみやぎ子どもの心のケアハウス運営支援事業に取り組み。この事業は、東日本大震災に起因する心の問題などにより、学校生活に困難がある児童生徒の居場所づくり、不登校児童生徒の学校復帰支援体制の構築を目的とする。そこで問う。

問 この事業の補助期間は、32年度までである。町では、補助期間終了後も継続していくのか。本町は30年度から32年度までの3年間を

教育長 今回開設する「(仮称)柴田町子どもの心のケアハウス」は、不登校対策の推進役としてスーパーバイザーを2人配置し、不登校などの課題改善に取り組んでいるスタッフを統括し、体系化した指導体制を構築するもの。

問 子どもの心のケアハウスの開設場所は、船岡公民館1階の調理実習室を改修して開設する。学習スペース、相談室、事務室などを整備する。建物の西側に入り口を新設し、児童生徒や保護者が通所しやすい環境にする。

教育長 補助事業として実施する。不登校児童生徒に通所してもらい、学校復帰を目指す。継続が必要な場合は、町の単独事業として実施したい。

問 介護保険制度の改正後、第7期介護事業計画はどのように変わるのか。現役並み所得者の利用料が3割負担になるが、その影響は。

町長 合計所得が340万円以上の被保険者が対象になるが、1カ月当たりの利用負担限度額は4万4千400円で、大きな負担増にはならないと考える。

問 介護医療院ができるのと、サービスはどのように変わるのか。

町長 これまでの介護療養型医療施設が廃止になるため、今後、慢性期の医療介護ニーズに対応する施設である。

問 新設により、介護保険特別会計の給付費が大きく増えるのでは。

福祉課長 利用する場合、医療保険と介護保険を併用する形になるが、点数配分が医療なのか、介護なのか区分がはっきりしていない部分があるので、それが確定しなければわからないのが実情である。これまでの介護療養型施設を利用する人が介護医療院に移るとすれば、それほど多い人数ではないので、介護保険の給付が大きく増えることにはならないと考えている。

Q 制度改正後も変わらぬ介護サービスの提供を



広沢 真 議員

A サービスを控える事例は現在は発生していない



気分もスカット！ スカッドボール!!

一般質問

掲載した質問のほかに、次の項目がありました。

平間奈緒美 議員

- 問 町主催の行事には、町民歌と町民音頭を。
 答 ホームページに音源の公開だけでなく、町主催行事などで周知していくよう工夫する。

吉田和夫 議員

- 問 アプリを利用した子育て支援を。
 答 子育て情報の発信や、子どもの成長が記録できるアプリの導入について検討したい。
 問 公共施設に公衆無線 LAN (Wi-Fi) の整備を。
 答 平常時の具体的な活用や利用頻度などについても検討する必要があると考える。

舟山 彰 議員

- 問 仙台市のように、町施設の消防用設備の総合点検を前倒しすべきでは。
 答 消防用設備に関し、修繕費が必要となったときは、速やかに対応していく。
 問 町の地方創生事業の中間チェックはいかに。
 答 中間評価については、29年度事業が終了した時点で達成度を確認する。

加藤 滋 議員

- 問 街なかの公園に健康遊具の設置を。
 答 現在 11 の公園に設置。進展する高齢化社会・健康志向の高まりに対応できるように検討する。

平間幸弘 議員

- 問 町長は 7 月の選挙をどう考える。
 答 私が出る、出ないではなく、私がこれまでにやった政策を町民がどう判断するかである。

秋本好則 議員

- 問 既存の公共施設を維持するには多額の経費が必要。公共施設等総合管理基金で備えては。
 答 既存施設の維持管理では緊急に対応することも多い。従来の財政調整基金で対応する。
 問 民間放送局の CM コンテストに応募しなかったのは、仙南では柴田町と山元町。取り組みは。
 答 27 年度から応募がない状態。各種媒体を通じて広く住民に募集を募っていく。

白内恵美子 議員

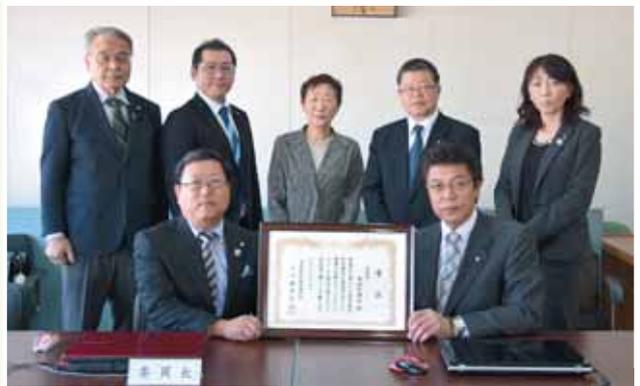
- 問 学校図書館の活用を促すため、放課後の貸し出しの実施と、早急に全校に司書の配置を。
 答 貸し出しができるよう協議する。30 年度は 1 人増員し、小学校は全校配置となる。
 問 ネット依存に陥ってからでは救うのが困難である。ネット依存の実態把握と予防対策を。
 答 実態を把握することは困難。ネットとの付き合い方は、学校、保育施設等で啓発している。

平成 30 年度 柴田町議会予定表

(5月1日現在)

5月	8日~9日	産業建設常任委員会
	10日~11日	総務常任委員会
	17日~18日	文教厚生常任委員会
	21日~23日	一般質問受付
	30日	議会運営委員会
6月	4日~8日	6月会議
	8日	議会広報常任委員会
	21日	議会広報常任委員会(利府町議会視察)
	28日~29日	議会広報常任委員会
7月	2日~3日	議会広報常任委員会
	5日~6日	仙南・亘理地方町議会常任委員長研修
	17日	議会広報常任委員会
	19日	議会広報常任委員会
	24日~25日	県議長会議員講座

※随時各常任委員会開催



議会だより157号 奨励賞受賞!!

第37回議会広報選考会に、「しばた議会だより157号」を応募いたしました。その結果、2月8日に宮城県町村議長会において、奨励賞をいただきました。

質疑内容や討論などを写真で誘引するなど、よく構成されているという評価や、議会改革に取り組み、議会活性化に連動した企画がよいとの評価をいただきました。

また、見出しや、紙面レイアウトの工夫を指摘されました。今後とも、広報委員一人ひとりが編集力を高め、よりよい紙面づくりに精進してまいります。

議会からの指摘事項（所管事務調査報告書）

常任委員会レポート

各常任委員会は各課の仕事を調査しています。

総務 常任委員会

平成30年1月11日～12日



仙南クリーンセンター

調査内容

- ①仙南クリーンセンターについて（行政視察）
- ②仙南最終処分場について（行政視察）
- ③仙南クリーンセンター稼働後のごみ処理の現状について
- ④フットパス関連事業について

調査結果

【町民環境課】

- ごみ減量化をはかるため、生ごみの水切り徹底など住民への啓発をさらに推進すること。
- 行政区や子ども会育成会などが行う資源回収活動を町としても促進されたい。

【まちづくり政策課】

- フットパス関連事業は「しばたの未来株式会社」が進めているが、重要施策の一つであることから、町として委託先と連携し、フットパスの認知度を高めるよう努力をすること。

文教厚生 常任委員会

平成30年1月16日～17日・25日

調査内容

- ①放課後児童クラブの管理運営状況及び課題について
- ②仙台大学内預かり保育及び子育て支援事業について（行政視察）
- ③柴田町地域包括支援センターの活動状況と課題について（行政視察）
- ④学校給食センターの管理運営状況及び課題について
- ⑤自立支援相談員からみた児童・生徒の現状について
- ⑥教育委員会の事務に関する点検、評価報告書について
- ⑦（仮称）柴田町子どもの心のケアハウス事業について

調査結果

【教育総務課】

- 学校給食センターは、経年劣化により改修箇所が多数ある。国の基準も満たしておらず、保健所からの指導もある。国の基準を満たすには、調理工程ごとに汚染・非汚染・その他の作業区域を部屋単位に区分しなければならない。大規模改修して長寿命化を図るよりも建て替えをすべきである。



学校給食センター

産業建設 常任委員会

平成30年1月25日～26日



町内花き生産農家

調査内容

- ①柴田町水道お客様センターの状況について
- ②鷺沼排水区雨水整備事業の進捗状況について
- ③花き生産農家と畜産農家の現状について
- ④ため池管理の現状について

※その他3件の調査事項がありました。

調査結果

【上下水道課】

- 水道料金の電算システムについては、汎用化を進め、コスト削減につながるよう検討すること。
- 鷺沼排水区5号調整池の掘削工事は、安全面に配慮して進めること。
- 清住2号公園の利用開始には、安全対策を十分に検討すること。

【農政課】

- 使用されなくなった利用可能なビニールハウスの有効な活用策を検討すること。
- 畜産農家で共同利用している堆肥運搬用車両が老朽化しているので、対話の場を設けるなど、町として支援を検討すること。

委員会活動報告

活動しています。その成果は？

共通項目

- ①年間活動テーマ
- ②重点調査事項
- ③活動実績
- ④成果及び反省

※議会運営委員会及び議会広報常任委員会は、「③・④」の報告

① まちづくりに向けて ～検証から提言へ～

- ② ●空き家対策について
(空き家バンクの活用、移住定住促進対策)
- 防災対策について
(防災訓練のあり方、山林火災、水害対策、局地冠水対策マニュアル)

- ③ 【所管調査】(議会だより 157～160号に掲載)
- 29年5月9日～10日 ●29年6月20日～21日
- 29年11月8日～9日 ●30年1月11日～12日

- ④ ●当初計画において予定していた重点調査事項についてはおおむね調査を行うことができた。
- 特に先進地視察を行った空き家対策については、次年度も引き続き調査を行い、視察結果などを踏まえ、本町にある空き家対策はどのようなものかを検討していく必要がある。
- 公共施設等総合管理計画、町の防災対策についても、次年度以降引き続き調査を行う必要がある。

総務 常任委員会

- 公共施設等総合管理計画について
- ご当地ナンバープレートの導入について
- 槻木事務所の建物管理状況について
- 仙南クリーンセンターの稼働状況について

- 【先進地視察】(議会だより 159号に掲載)
- 29年10月10日～12日
島根県雲南市・江津市(空き家関連)
- 広島県広島市(放射線影響研究所)



① 子育て支援

- ② ●子育てに関わる施設・組織の運営状況を調査

- ③ 【所管調査】(議会だより 157～160号に掲載)
- 29年5月18日～19日 ●29年6月26日～28日
- 29年7月18日・20日 ●29年10月17日～18日
- 30年1月16日～17日 ●30年1月25日

- ④ ●当初計画で予定していた子育てに関わる施設などの現状については、おおむね把握できた。



文教厚生 常任委員会

- 【先進地視察】(議会だより 159号に掲載)
- 29年10月31日～11月2日
岡山県和気町(子育て支援関連)
- 岡山県総社市(子育て王国まちづくり事業)

- 小中学校から要望のあった事項については、委員会で指摘し、ほぼ対応することができた。
- 今後は先進地視察の和気町や総社市で取り組んでいる事業を参考に、本町として取り組める事業を検討していく。
- 仙台大学を視察したことにより、子育て支援で、大学との連携の可能性が見えてきた。
- 来年度も引き続き、子育て支援について、調査・検討を進めていく。

視て！
聴いて！
調べて！

平成29年度委

各委員会は年間テーマを設定し

- ① ● 水害対策の強化
- 太陽の村の位置づけ（マネージメント）
- 観光のマーケティング調査

産業建設 常任委員会

- ② ● 鷺沼排水区雨水整備事業進行状況
- 太陽の村の運用と活用策
- 6次化産業の取り組み

- 観光マーケティング調査の生かし方
- DMOの取り組み

- ③ 【所管調査】（議会だより 157～160号に掲載）
- 29年5月12日・15日 ● 29年6月14日～15日
- 29年10月24日～25日 ● 30年1月25日～26日

- 【先進地視察】（議会だより 159号に掲載）
- 29年10月11日～13日
- 長野県飯田市（DMOの取り組み）
- 岐阜県高山市（インバウンド事業）
- 岐阜県郡上市（グリーンツーリズム）

- ④ ● 鷺沼排水区雨水整備事業進行状況については、5号調整池を2回にわたり調査した。大幅な工事変更が生じるなどしたため、今後も調査を継続する必要がある。
- 太陽の村の運用と活用策及び6次化産業の取り組みは、十分な調査ができなかったことから、次年度に繰越して調査する。
- 観光マーケティング調査の生かし方及びDMOの取り組みについては、先進地視察内容を踏まえ、町政に生かされるよう、さらに調査を継続する。



議会広報 常任委員会

- ③ 【先進地視察】（議会だより 159号に掲載）
- 29年9月28日～29日
- 町村議会広報研修会（東京）
- 埼玉県戸田市（議会広報の発行ほか）
- 議会だよりを年4回発行。
- 議会終了後、編集作業（7日～8日）。

- ④ ● 読みやすい紙面づくりの工夫をした。
- 議会の記録としての役割も必要。
- 次年度も先進的な取り組み、事例を学ぶ。



議会運営 委員会

- ③ 【先進地視察】（議会だより 159号に掲載）
- 29年7月12日～14日
- 岩手県紫波町（議員間討議・議会改革）
- 岩手県久慈市（議会災害時対応マニュアルなど）

- ④ ● 議会基本条例の検証、議会改革について先進地を視察。その事例を学ぶ。
- （仮称）柴田町総合体育館建設に関して初の議員間討議を開催した。（2回）
- 政務活動費のホームページでの公開を提案、実施した。



改革

テーマ 議員間討議

柴田町議会では、平成25年4月1日に議会基本条例を施行しました。今回は、今まで行っていなかった議員間討議を、今後予定されている総合体育館建設をテーマに行うこととなりました。

総合体育館 建設概要

柴田町では、(仮称)総合体育館建設に向けて準備が進んでいます。

平成24年度に旧不二トッコン跡地を購入、住民懇談会、柴田町体育協会や柴田町文化協会との意見交換を経て、平成27年9月に、(仮称)柴田町総合体育館基本構想を立ち上げました。

平成28年度は、土壌調査、29年度は基本計画策定の予算を立てて進めてきました。

平成30年度当初予算では、体育館建設の具体化を示す基本設計が盛り込まれる予定だったため、議会としてこの計画を進めていくべきかを議員全員で深く議論するため、議会基本条例にも掲げられている議員間討議を行いました。

柴田町議会初！ 議員間討議

まず、12月12日にこの案件に対する疑問点、論議すべきポイント(論点)をワールドカフェ方式を用いて話し合いました。出された疑問点については、執行部へ照会、また論点を下記のとおり整理し、それらを踏まえ、1月30日、2月8日に柴田町議会で初めての議員間討議を行いました。

議員間討議までの流れ



整理した論点 (話し合うべきポイント)

論点① 総合体育館建設時期、必要性について
論点①-1 総合体育館建設はなぜいま必要なのか
論点①-2 今回の基本設計にはどのような内容が盛り込まれるべきか
論点② 町の財政等について
論点②-1 総合体育館建設を行って町の財政は大丈夫なのか
論点③ 町民の意向について
論点③-1 町民は総合体育館建設についてどのように考えているのか
論点③-2 町民の意向を確認するためには議会は何をするのか
論点④ 総合体育館建設の規模や内容について
論点④-1 総合体育館はどのように活用されるのか
論点④-2 どのような規模、内容の体育館が必要なのか
論点④-3 どのような財源、整備手法を用いて総合体育館を建設すべきか

ワールドカフェで出た意見

総合体育館建設

体育館建設利用計画、見込みについて

●利用者数の予測は。●各種イベントなど利用計画は。体育館の規模

●広さの根拠は。

体育館建設に要する予算について

●全体の総額は。●予算が33億を超えた場合、縮小するのか。

建設時期について

●建設時期を2～3年延長し、その分を目的基金に積み立てては。

財政負担

将来を見据えた全体的なシミュレーションは。

住民意向

体育館がほしい声、利用しない声をどうくみとるか。

その他

防災機能は。トッコン跡地の利用は。町全体の負債総額は。



ワールドカフェの様子

進む！議会

1月30日

議員間討議

論点① 総合体育館建設時期、必要性について

論点①-1 総合体育館建設はなぜいま必要なのか（抜粋）

今、必要な理由	
肯定的な意見	否定的な意見
<ul style="list-style-type: none"> ●用地取得から建設工事までのスケジュールが示され、機が熟している。 ●土地取得から7年が経過している。 	<ul style="list-style-type: none"> ●建設資材、人件費の高騰している中で、事業を進めていくには不安がある。 ●時期をずらし、基金を積み増しすれば楽になる。
土地取得の議決について	
<ul style="list-style-type: none"> ●平成24年に体育館建設予定地として土地を取得している。土地取得の議決責任がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●土地取得イコール体育館建設のゴーサインではない。体育館建設意思表明はしていない。
町の現状	
<ul style="list-style-type: none"> ●多目的に活用できる施設が必要。 ●文化行事など事業を行う場が必要。 ●防災拠点の整備が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●優先順位を考えると今でなくてもいい。 ●給食センターなどの緊急の課題ができてきている。 ●施設の老朽化対策を議論すべき。
町民の意向	
<ul style="list-style-type: none"> ●総合体育館ができるという意見の人が多く。 	<ul style="list-style-type: none"> ●住民の要望がそれほど高いとは思えない。

論点①-2 基本設計にはどのような内容が盛り込まれるべきか（抜粋）

必要な内容
<ul style="list-style-type: none"> ●避難所・イベントなどの利用を考えれば、体育館の規模を縮小しても空調整備が必要。 ●防災施設なども含んで積算してほしい。避難所としての機能を設計に盛り込むべき。 ●体育館使用の規模と年間利用日数などを考慮して体育館整備の内容は適正化を判断すべき。 ●観客席600席は必要か。300席くらいで基本設計してもいいのではないかと。 ●周辺宅地への水害への備えについて。 ●自衛隊の部外工事が今しかできないということならば、体育館建設事業のスタートはしないことを確約して図面を引くべき。

2月8日

議員間討議

論点②-1 総合体育館建設を行って柴田町の財政は大丈夫なのか（抜粋）

財政全般について	
肯定的な意見	否定的な意見
<ul style="list-style-type: none"> ●執行部は、建設資金計画を示しており、建設実現は可能と判断。 ●他の公債費も踏まえた上で説明、資料提出された。体育館建設後も財政は維持できるもの。 ●公債費償還財政シミュレーションでは、ピークが平成44年の14億1,910万円としている。現状の実質公債費比率が大幅に良化している点から財政的に対応できると判断する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●現段階では未確定要因が多すぎる。 ●交付税、臨時財政対策債などの依存財源の動向が不透明。 ●実施設計と基本設計の差が数%というのは疑問。また、利用計画も疑問。今一度精査して適正な規模を考えることができ、財政上大丈夫かの判断ができる。 ●身の丈に合った借金というものを考える必要がある。
他の公共施設との関係	
<ul style="list-style-type: none"> ●体育館建設を先送りすることで、現在使用中の公共施設の老朽化に伴い建設や解体など負担が重くなることも考えられる。現状より厳しい状態になるのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ●将来、体育館建設が負担にならないように。 ●給食センターの建て替えの緊急性を認識して、体育館の縮小、給食センター建設の速やかな立案と実施、図書館計画のずれなど検討するべき。

その他の意見：財政を考えて優先順位を決めるのではなく、町民サービス、ニーズを考えるべき。基本設計の金額を見て、削減するところを判断していく。



初の議員間討議

討論を終えて

2回にわたり、議員間討議を行い、30年度当初予算に盛り込まれた総合体育館基本設計委託料について、議員一人一人の考えを整理することができ、予算に賛成反対の姿勢を示すことができました。

今後は、残りの論点を引き続きしっかりと話し合い、柴田町にとつての最善策について、議会として方向を示していきます。

あなたの一言



おおくほ あかね
大久保 茜さん
(槻木下町2丁目 在住)

●柴田町に住んで感じたこと

私は気仙沼市の出身で、進学を機に柴田町にまいりました。町の皆さんに気さくに温かく接していただき、まるでもう一つの家族があるような安心感に学生時代を支えていただきました。卒業後も、「もう少しここにいたい」と残ることを決め、あつじつ間に柴田在住16年です。

●柴田町で好きなこと

一目千本校の並木道です。特にさくらマラソンスタート地点辺りから、船岡方面に向かう道は何度もウォーキングやサイクリングをしました。桜の季節が来ると、朝一番でカメラ片手に駆けつけるのも毎年恒例となりました。

●柴田町に何を望みますか？

槻木地区にもさらなる活気を一柴田町のイベントの多くは船岡に集中しています。また、小規模保育施設や子どもたちが

が気軽に集えるスペースも槻木にはまだまだ少なく感じます。槻木地区を盛り上げようと活動している方達も多くいらつしやるので、町と町民が二人三脚で歩んでいけるよう、今後も期待しております。

●議会だよりを読んでいますか？

特に子育てや高齢者への対策などは興味深く拝見させていただいています。

●議会・議員に何を望みますか？

辛い身近に議員の方がいるため、ちよつとした相談も気軽にできる環境があります。今後また皆さんの声を聞いていただき、さらなる活躍を期待しております。

■議会より一言

ありがとうございます。
槻木地区のさらなる活性化に向けて取り組んでまいります。

未来へ向けて

表紙について



元気に通う槻木小学校児童。新しいクラスに慣れたかな。「気をつけて帰るんだよ」と見守り隊の声に元気よく「はい!!」と笑顔!

◆編集後記◆

先日、議会メンバー15人でノルディックウォーキングに挑戦しました。インストラクター指導のもと準備体操をしてから船岡体育館を出発。山崎山から館山の平和観音を經由して山を下り、出発地点へ戻りました。起伏が少なく適度なコースのはずでしたが、日ごろ運動不足気味のメンバーにはつらいところもありました。それでも気持ちのよい1日となりました。

本町には里山ハイキングコース、フットパスコースなど歩くための道がいくつも整備されています。さわやかな季節、ご家族・友人たちと出かけられてはいかがでしょうか。

今号は3月の予算議会の報告です。読みやすさなど、意見をいただけるとありがたいです。

議会広報常任委員 森 淑子

「議会ネット中継」へのQRコード



※詳しくは、柴田町ホームページを参照してください。

ぜひ、議会の傍聴を!! お待ちしております!

6月会議は

6月4日(月) 午前9時30分開会予定

一般質問は

6月4日(月)・5日(火)・6日(水)の予定

※詳しくは町議会事務局(☎55-2136)へお問い合わせください。

町ホームページに本会議審議等結果を掲載 各種会議の出欠状況を掲載

町ホームページ内、「柴田町議会」の中の「議会のうごき」に、議員(委員)の出欠状況も掲載しています。

柴田町議会

検索

柴田町議会のホームページもご覧ください

このしばた議会だより160号は、約16,000部作成しています。1部当たりの経費は約41円です。